

編集の序

病院薬剤師は、患者さんの薬物療法が適正かつ安全で効果的に行われるよう、さまざまな業務に携わっている。病院薬剤師の活動により、死亡率、薬剤費、医療費、入院日数、医療事故や医療過誤などを軽減できることが報告されている。病院薬剤師には、チーム医療の一員として臨床現場における医薬品の適正使用の推進および安全性を確保するリスクマネージャーの役割が期待されている。

薬学教育6年制への移行の必要性が出てきた背景には、医療技術の高度化、複雑化および専門化により、質の高い薬剤師の誕生を社会が望んだことがある。医療現場で活躍する薬剤師を育てる必要がある。医療現場で必要になる知識や技能・態度を身につけた薬剤師を育てるため、薬学教育6年制では長期実務実習が必須となり、実務実習を充実させる必要性がある。

本書は、ビジュアル薬剤師実務シリーズの「病院編」の「病院調剤と医薬品管理の基本」である。病院薬剤師の業務の理解やレベルアップにつながるものと確信している。目次の構成は、実務実習モデル・コアカリキュラムの病院実習方略に準拠しており、薬学生の実務実習に活用しやすいよう配慮した。各項目には対応するLS番号を記載し、実習に臨む学生も指導する側も実習内容や到達目標が一目でわかるようにした。

内容は、調剤、注射調剤、院内製剤、医薬品管理、医薬品情報など病院薬剤業務のコアとなる重要な部分について学生・初心者にもわかりやすく丁寧に解説した。病院薬剤業務を広く理解するため、モデル・コアカリキュラムにない内容であっても必要な内容を追加してわかりやすく記載した。病院薬剤師の役割を明確にするため、病院内における薬剤師の位置づけや薬剤師の職能が十分発揮できるPK/PDに基づく処方支援についても触れた。

実務は文章だけの説明ではイメージしにくいことがあるので、本書はイラストや写真を多用することで非常にわかりやすい内容になっている。実務ですぐに使える内容を心がけ、薬剤師業務に必須の知識や手技を基本からしっかり学べる充実した内容にした。知識の修得に加えて、技能および態度の修得も可能にした。

実務実習に望む薬学生のみならず、これから病院薬剤師として出発する新人薬剤師、薬局や病院で指導する立場にある薬剤師の方々、薬学生の教育に携わる薬学部教員の方々が参照するテキストになることを期待している。

本書が薬学生のみならず、指導薬剤師や薬学部教員など多くの方々の参考になれば幸いである。

2009年1月

編者を代表して
伊藤由紀